

中橋徳五郎 実業家・政治家。官界から大阪商船社長になり、関西財界の重鎮後、政界に転じ、政争に翻弄された。

なかはしとくごろう

遣欧使節・1861 = 金沢で、加賀藩士斎藤宗一の五男に生まれ、中橋家の養嗣子となる。

明治維新・1868 = 7歳 :

初の日刊新聞1870 = 9歳 :

明治6年政変 1873 = 12歳 :

沖縄編入・1879 = 18歳 :

明治14年政変1881 = 20歳 :

石川県中学師範学校を経て、

帝国大学始・1886 = 25歳 : 東京大学法学部選科を卒業、判事試補として横浜始審裁判所詰を命ぜられたが、

国民之友始・1887 = 26歳 : 農商務省に入り、さらに逓信省に移り、

初の対等条約1888 = 27歳 :

帝国憲法発布1889 = 28歳 : 帝国議会制度取調局出仕となり、欧米に派遣される。

帰国後、衆院書記官をへて、

逓信省の参事官、管船局長を歴任。

日清戦争始・1894 = 33歳 :

八幡製鉄始・1897 = 36歳 :

子規句歌革新1898 = 37歳 : 逓信省鉄道局長の時、大阪商船社長の岳父田中市兵衛の懇請により、同社長に就任。

台湾総督府の補助をうけ、同社航路を拡大。

併せて宇治川竜気株式会社社長・日本窒素肥料株式会社社長などを兼任、熊本県水俣町に最初の窒素肥料製造工場を建て、関西財界の重鎮として活躍する。

日露戦争終・1905 = 44歳 : 日露戦争後、渋沢栄一・益田孝と日清汽船を創設、取締役となる。

満鉄発足・1906 = 45歳 :

韓国併合・1910 = 49歳 : 大阪市会議員に推され、議長に選ばれ、

明治天皇没・1912 = 51歳 : 大阪市から代議士に当選したが、

大正政変・1913 = 52歳 : 辞任して社業に復帰した。

第一次大戦始1914 = 53歳 : *同社長を退職して、政友会に入り、

21ヶ条要求・1915 = 54歳 :

民本主義・1916 = 55歳 : 石川県から代議士に当選、

ロシア革命・1917 = 56歳 : 総務委員となった。

本格政党内閣1918 = 57歳 : *成立した原内閣に文相として入閣、前内閣からの懸案であった高等教育機関の拡張計画の実現をめざし、高等学校・専門学校を合わせて29校の新設と、既設の専門学校や大学学部の拡充、医学専門学校5校の設置、東京高等商業学校の大学昇格などを含む大拡張案を第四十一議會に提出したが、

大暴落・1920 = 59歳 : 大正十年度の予算編成で多くの計画が臨時教育委員会で賛成を得られず、各校の昇格運動が高まる中で文相の食言問題として貴族院や野党から攻撃され、政治問題化したが原首相の擁護で閣内に踏みとどまり、原首相の横死で後を受けた高橋是清首相は昇格問題などによる内閣の連帯責任を否定し、政友会内に中橋・山本達雄ら政友会の改革を主張するグループと、首相支持の非改革派の対立が表面化、

水平社結成・1922 = 61歳 : 内閣総辞職となった。それ以後も両派の確執は解消せず、

護憲三派圧勝1924 = 63歳 : 清浦奎吾に内閣組織の大命が下ると、非改革派が反対して憲政会・革新倶楽部と護憲三派を形成したのに対し、内閣支持の立場をとり、脱党して政友本党を結成、総務委員に就任したが、総選挙で落選、

治安維持法・1925 = 64歳 : 政友本党の大勢が憲政会との合同に傾いたため脱党、

円本時代始・1926 = 65歳 : 政友会に復帰した。

共産党事件・1928 = 67歳 : 田中義一政友会内閣が組織されると商工大臣として入閣、金融恐慌下の経済混乱の収拾に努め、

満州事変・1931 = 70歳 : 犬養政友会内閣では内相となったが、

五一五事件・1932 = 71歳 : *病気のため辞職し、

帝人疑獄事件1934 = 73歳 : 没した。